

年頭のご挨拶

鹿児島市長 下鶴 隆央



令和八年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

鹿児島市医師会の皆様におかれましては、日頃から、昼夜を問わず、医療の最前線で尽力されていることに深く敬意を表します。

また、夜間急病センターの管理運営や休日の在宅当番医制の実施、予防接種・健診・検診、介護認定審査、本市主催の各種協議会等への参画など、市政の多岐にわたる分野において、温かいご理解とご協力を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

昨年は、「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録から10周年を迎え、記念の行事等が開催され、仙巖園駅の開業とも相まって、多くの皆様に、我が国の産業化の歴史を物語る遺産群の魅力や価値に触れていただくことができました。

私自身、折に触れ、近代日本の礎を築いた先人達の揺るぎない意志や弛まぬ歩みに思いを巡らせ、本市を取り巻く幾多の課題から目を背けず、正面から挑み続け、明るく輝かしい未来を切り拓いていく決意を新たにしたいところでございます。

さて、国においては、足元の物価高に対応しつつ、デフレ脱却、成長型経済への移行を目指し、総合経済対策を進めるとともに、我が国最大の問題は人口減少であるとの認識のもと、新たな「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地方創生の取組を推進するとしております。

本市におきましては、物価高から地域の暮らしを守り抜くことを最優先しつつ、子育て世代や若者をはじめ、全ての方々に「選ばれ

るまち」を築き上げることが急務であると考えております。

主な取組としましては、高付加価値型の産業・事業の創出や海外展開の促進、インバウンドの対応強化等の取組を一層進め、地域の稼ぐ力を高めるとともに、若者・女性が活躍できる魅力的で安定した雇用の場の確保を図ってまいります。

また、保育の受け皿や遊び場の確保など、子育て環境のさらなる充実を図るとともに、居場所づくりや学びの支援など、子どもの未来を応援する取組を進めてまいります。

あわせて、認知症オレンジシティの推進など、互いに支え合う温もりに満ちた地域社会の形成を図るとともに、大規模災害への備えや渋滞対策の推進に取組むなど、誰もが住み慣れた地域で安心して安全・快適に暮らせる環境づくりを進めてまいります。

昨年末には地域医療構想や医療DXの推進等を盛り込んだ改正医療法が国会で成立するなど、医療に関連する分野が変革期を迎える中、市政の推進にあたり皆様方との緊密な連携は大変重要になってきております。今後においても、健康づくりや福祉サービスの充実に積極的に取り組み、子どもから高齢者まで、全ての人が自分らしく健やかに暮らせるまちづくりを推進してまいりますので、引き続きより一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、新しい年が未来への夢と希望の持てるすばらしい年となりますことと、鹿児島市医師会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。